

東京 IPO 特別コラム

2021年11月24日 Vol.183

令和3年のIPO銘柄数は120社超えに

今年も残すところあと1か月余り。四半期決算発表後の株式相場は一気の株高には至らないものの、利益確定売りをこなしながらも比較的堅調な推移を辿りつつある。今年はコロナ後の景気回復に伴う需要拡大から半導体関連やコンテナ不足下の海運株が顕著な株高を見せたほかDX関連銘柄の活躍が目についた。IPO市場には2月5日のQDレーザ(6613・M)から始まり、11月19日のAB&Company(9251)まで89の銘柄が登場。人気、不人気の差こそあれ成長意欲の高い銘柄群への関心が高まった。この後も本日のサイエンスアーツ(4412・M)、ラストワンマイル(9252・M)から12月27日のアジアクエスト(4261・M)まで36銘柄のIPOが予定され、トータルでは125もの銘柄がIPOを果たすことになる。例年はおおよそ90銘柄前後なのでそれを大幅に上回るIPO銘柄数となる。

この125銘柄のうちの93銘柄はマザーズで圧倒的で、16銘柄のJASDAQを合計すると109銘柄となる。このほか東証1部が6銘柄、東証2部が8銘柄、残りの2銘柄はQボード。12月は32銘柄の取引が予定されており、12月20日以降24日までがIPOラッシュの様相を呈することになる。

とりわけ12月24日のIPOは7銘柄となり、順調なIPO銘柄の上場に向けクリスマスに向け全体相場の明るいムードは不可欠となる。

今年のIPOにはさほど目玉となるような銘柄がなく、概ねIPO直後の高値から調整が入る銘柄が多い。一方で、調整後に大きく人気化している銘柄もあり、悲喜こもごもの相場展開とはなっているが、個人投資家の皆さんの運用対象となっている点ではますます関心を高めていると推察される。

2月のIPOではアールプランナー(2983・M・公開価格2210円)が初値5000円から5月の安値2091円(5月)まで下落したが、その後は好業績を背景に高値8380円(11月)まで4倍になったのが目に付く。同社は名古屋地盤の住宅(注文+建売)会社。首都圏への進出で業容拡大を図る。コロナ後の戸建て住宅ニーズの高まりを取り込み業績好調。もともと低PERで評価不足だったところに好業績が加わり、一気に株高につながった。不動産DX関連として人気化したことも株高の要因。また直近は1月末実施の株式4分割を19日に発表し流動性を高めようとしている。

これに続くのが4月にIPOした人材関連のビジョナル(4194・M・公開価格5000円)で初値7150円から直近は9740円まで買われているが、やや値がさなので一般投資家には手が出しにくい。

IPO後に一時人気化したQDレーザ(6613・M)や室町ケミカル(4885・JQ)、シキノハイテック(6614・JQ)などハイテク系の銘柄も一時人気化した。現在は高値から大きく調整している。

IPO時に不人気だったEV関連の日本電解(5759・M)は公開価格1900円

東京 IPO 特別コラム

に対して初値は1900円と同値で安値1810円までついたがその後は11月にかけて株高を演じ高値5480円をつけた。その後は反落の動きだが、中間期の進捗率が高く中長期的な成長に期待される。

また、今年はコンサル系の銘柄に人気が集まっている。一時株価6万円以上をつけたベイカレント・コンサルティング(6532)の株高なども背景にあるが、DX化を推進する上でのアドバイザーへのニーズが高まり、業績が急拡大したことがベイカレントの株高の背景になっていると推察され、これに類似した専門性の高い高付加価値銘柄への関心が高まっているものと推察される。

例えば直近ではプラスアルファ・コンサルティング(4071・M・公開価格2300円)が人気化しており、8月安値2050円から4340円まで2倍になり現在も高値圏に位置している。PERはすでに100倍の水準で買にくい銘柄となっているが、7月にIPOしたDX関連のデリバリーコンサルティング(9240・M・公開価格950円・安値826円)はテクノロジーコンサルティング事業を展開。東証2部銘柄で不人気場面が続くのがAIメカテック(6227・東証2部・公開価格1920円・初値1941円・高値2043円・安値1240円)だが、1Q決算が先行費用から小幅の営業赤字となりやや不安感がある点で人気がないが、今6月期通期見通しは6.1%の増収に対して22.8%の経常増益(11.2億円)を見込み予想PER10倍台で配当利回りも3%台をキープ。

バリュー銘柄は基本的に不人気であるが、特に今期業績見通しに不透明感があると株価は上昇してこない。直近の東証2部上場銘柄では日本調理機(2961・T2・公開価格2710円)がそうした銘柄に該当する。同社の前9月期決算は7.3%増収に対して40%の経常増益と堅調なものとなった(EPSは449円)が今期は24%の経常減益でEPSは304円を見込む。BPSは5993円で予想PER8倍台、実績PBRO.4倍台、配当利回りは4%台後半となっている。

このところは株式分割の発表で人気化している銘柄も散見されるが、その中では9月30日にマザーズ市場にIPOしたアスタリスク(6522・公開価格3300円、初値5760円⇒高値26740円)は4分割の実施を発表。DX関連での業績の伸びを背景に株価の上昇が顕著に見られる。

このように上場後の不人気場面を経て市場での人気を高めているケースも見られ、IPOラッシュの中で個人投資家のIPO銘柄への関心が再び高まりつつあるように思われる。11月は24日から残り4銘柄がIPOを予定。12月は怒涛の32銘柄のIPOとなり師走相場のフィナーレを迎えることになる。JDSC(4418)やエクサウィザーズ(4259)などAI関連企業も含まれるほかDX、CXなどのテーマ性を抱えた銘柄の人気化を本コラムでは予想している。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)